

「第3章 課題施設に係る需要移転の検証」補足説明資料

本資料は、本編第3章の検証目的やプロセスを分かりやすくお伝えするための補足資料です。

【補足說明資料】

第3章 課題施設に係る需要移転の検証

1 検証方法について

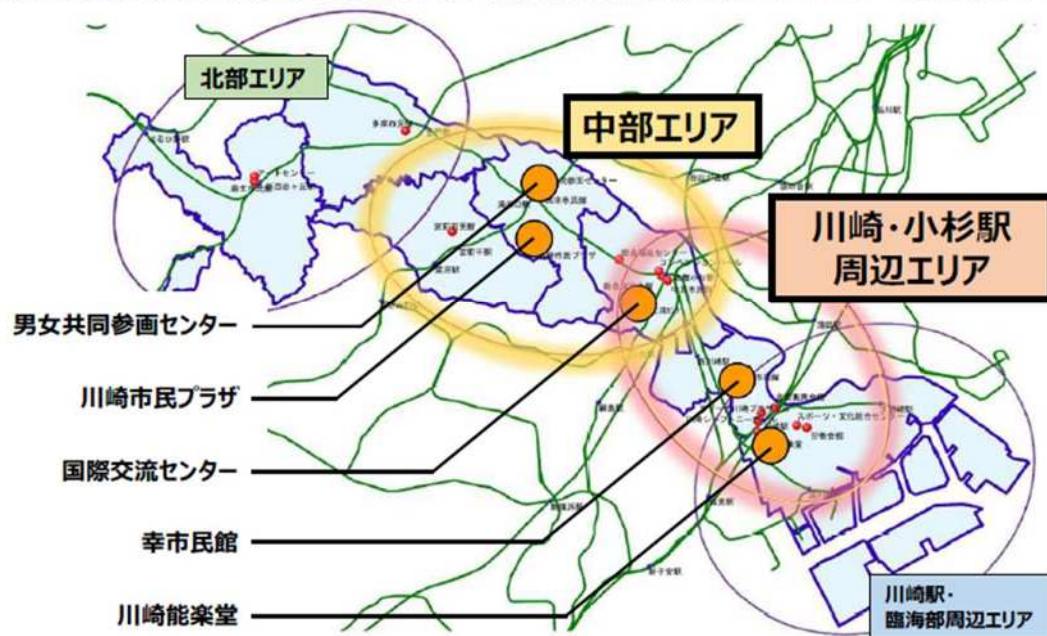
(1) 検証の前提条件

課題施設のホール需要の移転を実際に行う上では、需要の移転先（公共ホールやその他の施設）や需要移転する量（すべての移転や一部だけの移転）の組合せによる複数の選択肢の中から、課題施設や需要移転先が有する様々な条件なども踏まえ、総合的に検討していく必要があります。

本取組方針では、課題施設に係る需要移転の可能性について確認を行うことなどを目的に、「各課題施設のホール需要すべてを他の公共ホールに移転する（以下「全需要移転」という）」という最も厳しい条件下における、理論上、需要移転可能な最大施設数について、検証を行います。

(2) 課題施設の配置状況

各課題施設の配置と生活行動圏の状況は以下のとおりとなります。国際交流センターは、2つの生活行動圏に属しています。



生活行動圏	施設	生活行動圏
川崎・小杉駅周辺エリア	労働会館 スポーツ・文化総合センター 川崎駅東図書室 産業振興会館 ラゾーナ川崎プラザソル 川崎シティオーニホール 幸市民館 総合自治会館 国際交流センター 中原市民館 コンベンションホール 総合福祉センター 川崎市民プラザ 高津市民館 男女共同参画センター 宮前市民館	部川 岡崎 辺駅 エ・ リ 路 ア 海
エリシア	多摩市民館 麻生市民館 アートセンター	中都エリシア
北部		

【補足說明】

課題施設の中には、稼働率が高い施設が含まれており、需要移転先の未利用コマの状況によっては、全需要移転ができない可能性があります。

そこで、本章では、各課題施設の取組の方向性（第5章）を整理する前段として、**本取組の実現可能性**について確認することを目的に、需要移転の検証を行っております。

＜各課題施設の年間稼働率＊＞

川崎能楽堂	27.5%
幸市民館	51.7%
国際交流センター	71.7%
川崎市民プラザ	29.7%
男女共同参画センター	86.0%

* H28～H30の平均値

【補足說明】

この表は、4つの生活行動圏の中に
ある公共ホールを示しています。

課題施設からの需要移転は、同じ生活行動圏内にある他の公共ホールへ行うことを前提としています。

【補足説明資料】

第3章 課題施設に係る需要移転の検証

1 検証方法について

(3) 課題施設の需要量（稼働コマ数）と各施設の需要受入可能枠（未利用コマ数）

5つの課題施設における、稼働コマと未利用コマの概要は下表のとおりです。休日における課題施設の稼働コマ（1,214コマ）に対し、課題施設以外の未利用コマ（710コマ）が少ないとから、需要移転には一定の限界があることが分かります。

そこで、休日における稼働コマ及び未利用コマの状況を踏まえた需要移転検証を行ったところ、5施設の全需要の移転及び4つの課題施設の組み合わせによる全需要の移転はできず、3つ以下の課題施設の組み合わせによる全需要の移転について詳細な検証が必要になることが分かりました。

生活行動圏	川崎・小杉駅周辺エリア										中部エリア					課題施設以外合計	課題施設合計	
	労働会館	スポーツ・文化総合センター	川崎能楽堂	産業振興会館	ラゾーナ川崎プラザソル	川崎シティオフィンホール	幸市民館	総合自治会館	国際交流センター	中原市民館	コンベンションホール	総合福祉センター	川崎市民プラザ	高津市民館	男女共同参画センター	宮前市民館		
平日	利用可能コマ	678	615	697	635	630	525	675	465	660	673	699	680	706	661	670	632	-
	稼働コマ	268	473	151	442	523	440	273	96	430	509	125	497	125	422	544	435	1,523
	未利用コマ	410	142	546	193	107	85	402	369	230	164	574	183	581	239	127	197	2,663
休日	利用可能コマ	346	328	352	324	357	316	345	222	338	346	330	342	347	346	345	346	-
	稼働コマ	270	278	135	272	343	287	265	64	285	319	109	315	200	312	329	324	1,214
	未利用コマ	76	50	217	52	14	29	80	158	53	27	221	27	147	34	16	22	710

【休日における稼働コマ及び未利用コマを踏まえた需要移転検証】

① 5つの課題施設のすべての需要を他の公共ホールに移転

⇒休日における課題施設の稼働コマ合計値（1,214コマ）が、課題施設以外の未利用コマの合計値（710コマ）を上回ることから、全需要の移転は不可能

② 4つの課題施設のすべての需要を他の公共ホールに移転

⇒すべてのパターンで全需要の移転は不可能（右図表参照）

③ 3つの課題施設のすべての需要を他の公共ホールに移転

⇒稼働コマ合計値と未利用コマ合計値の比較だけでは、不可能と判断できない

3つ以下の課題施設の組み合わせによる全需要の移転については、詳細な検証が必要

4つの課題施設の組み合わせ	休日稼働コマ合計	休日未利用コマ合計	需要移転可否
川崎能楽堂を除く	1,079コマ	927コマ	不可
幸市民館を除く	949コマ	790コマ	不可
国際交流センターを除く	929コマ	763コマ	不可
川崎市民プラザを除く	1,014コマ	857コマ	不可
男女共同参画センターを除く	885コマ	726コマ	不可

【補足説明】

このページでは、課題施設の需要が他の公共ホールで受け入れ可能かを検証する第1段階として、「課題施設の稼働コマ」と「課題施設以外の未利用コマ」の比較をしています。

中段の表から、平日と比較し未利用コマの少ない休日を見ると、「課題施設の稼働コマの方が、「課題施設以外の未利用コマ」より多く、**5つの課題施設すべての需要移転はできない**ことが分かります。

同様に、**4つの施設の組み合わせ（計5パターン）**についても、**すべての需要移転ができない**ことが分かります。

3つ以下の課題施設の組み合わせによる全需要の移転については、同様の検討だけでは不可能と判断できないため、第2段階として次ページ以降で詳細な検証を行います。

【補足説明資料】

第3章 課題施設に係る需要移転の検証

1 検証方法について

(4) 需要（稼働コマ）の分類

3つ以下の課題施設の組み合わせによる詳細な全需要の移転検証にあたり、次の条件で**需要を分類**します。

- ①練習利用は基本的に客席を必要としないことから、「本番利用」と「練習利用」で分類（本番利用のための前後の準備・片付け、ゲネプロは本番扱い）
- ②休日と平日では、需要量及び受入可能枠に差があることから、「休日（土・日・祝日）」と「平日」で分類
- ③本番利用時の客席利用率は、5割以下の利用が半数以上（稼働コマ数ベース）となっており、利用客席数に応じた需要移転が可能となるよう、**利用客席数を100人単位に分類**
- ④各ホールが保有する舞台設備等により利用用途への適合性に差異があることから、**利用用途及び利用用途に応じたホールの適合性を下表のとおり分類**

施設	音楽				演劇・ダンス				伝統芸能など				その他				
	オーケストラ	吹奏楽	合唱	ピアノ	楽器・ミュージカル	ダンス	バレエ	幼稚園等生活発表会	日本舞踊・能	邦楽	座談	太鼓	会議・セミナー等	カラオケ	映画会	展示会	健康診断
羽衣会館	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
スポーツ・文化総合センター	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
川崎能楽堂	C	C	C	C	B	B	B	B	A	A	A	A	A	A	A	A	A
産業振興会館	A	A	A	B	A	A	A	A	B	A	A	A	A	A	A	A	A
秦市民館	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
ラゾーナ川崎プラザソル	B	B	B	B	A	A	A	A	B	A	A	A	A	A	A	A	A
シンフォニーホール	A	A	A	A	A	A	A	A	B	A	A	A	A	A	A	A	A
総合自治会館	B	B	B	B	A	A	A	A	B	A	A	A	A	A	A	A	A
国際交流センター	B	B	B	B	A	A	A	A	B	A	A	A	A	A	A	A	A
中麻市民館	A	A	A	B	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
総合福祉センター	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
コンベンションホール	C	C	C	C	B	B	B	B	A	B	B	A	A	A	A	A	A
川崎市民プラザ	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
高津市民館	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
男女共同参画センター	A	A	A	A	A	A	A	A	B	A	A	A	A	B	A	A	A
宮前市民館	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
多摩市民館	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
厚生市民館	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
アートセンター	B	B	B	B	A	A	A	A	B	A	A	A	A	A	A	A	A

【凡例】A～Cは、ホールの用途適合性を示す

A：利用頻度の高い設備が8割以上充足している

B：A及びC以外

C：利用頻度の高い設備が半数以上不足している

【補足説明】

詳細な検証は、各稼働コマの利用状況などを踏まえた具体的な検証を行います。

そこで、以下の条件で、**需要（稼働コマ）を分類**します。

- ①「本番」と「練習」
- ②「休日」と「平日」
- ③**利用客席数**
- ④**利用用途**

【補足説明資料】

第3章 課題施設に係る需要移転の検証

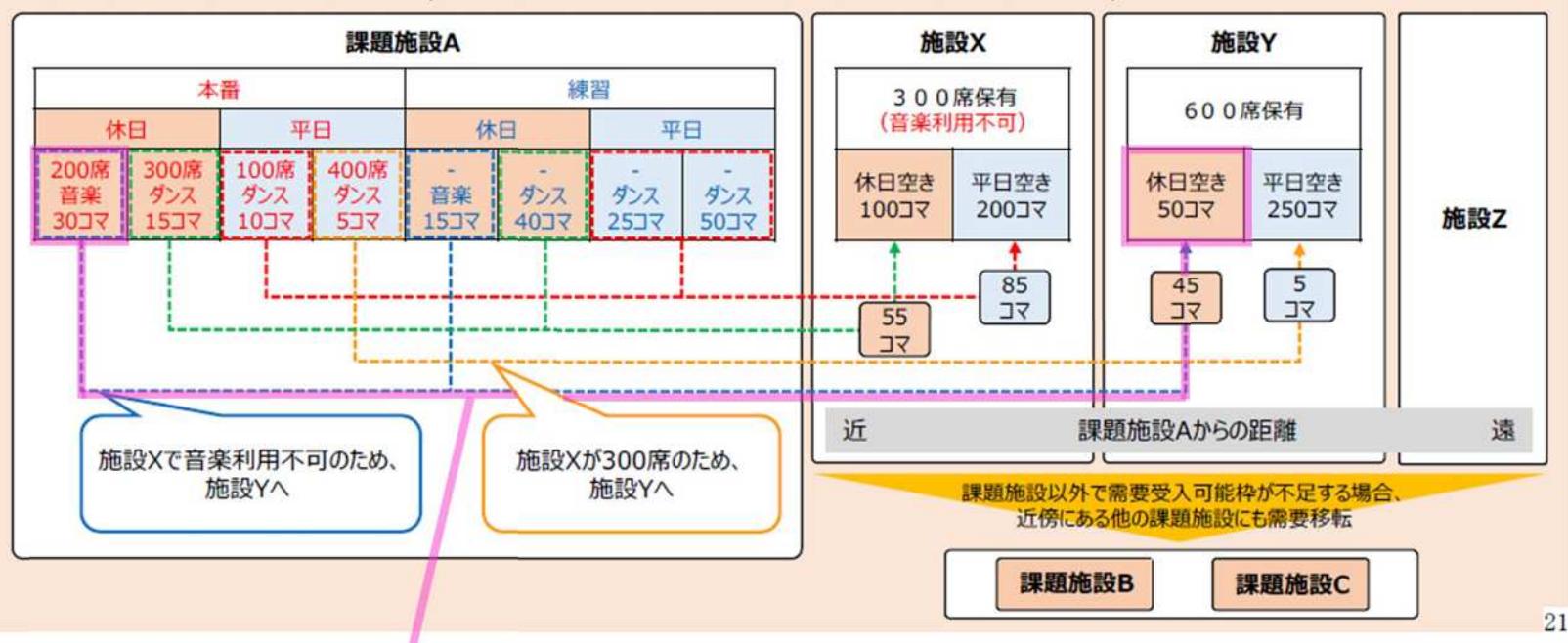
1 検証方法について

(5) 需要移転に係る検証条件

以下の条件により、詳細な需要移転の検証を行います。

- ・**需要（稼働コマ）の分類における4つの要素**（①「本番利用と練習利用」、②「休日（土・日・祝日）と平日」、③「利用客席数と保有客席数」、④「利用用途と需要移転先の用途適合性」）を踏まえ需要移転を行う。
- ・需要移転後における需要移転先までの利用者の移動距離を考慮し、課題施設から近傍にある公共ホール（課題施設以外）を優先し、順次、需要移転を行う。
- ・課題施設以外の公共ホールで需要受入れ枠が不足した場合は、近傍にある他の課題施設への需要移転を優先し、順次、需要移転を行う。

課題施設Aからの需要移転検証イメージ(模式的に示すため、ピアノ・ダンスに絞った表現とし、残る15分類を省略)



【補足説明】

詳細な検証は、下段のイメージのように、分類した需要（稼働コマ）ごとに、条件に合う未利用コマを有する施設への需要移転シミュレーションを行っていき、3つ以下の課題施設の組み合わせにおいて、すべての需要が移転できるかを検証します。

なお、需要移転による利用者への影響を考慮し、課題施設から近傍にある施設への移転を優先します。

【補足説明】

課題施設Aで「本番・休日・200席・音楽・30コマ」に分類された稼働コマを、近傍の施設に需要移転可能かを検証します。最も近傍の施設Xは、休日の未利用コマ数、保有客席数の条件は満たしていますが、音楽利用不可の施設であるため、需要移転先としての条件に合う施設で、次に近傍となる施設Yに需要移転します。このような詳細な需要移転のシミュレーションを課題施設すべてで行い、需要移転ができるかを検証します。

【補足説明資料】

第3章 課題施設に係る需要移転の検証

2 需要移転の可能性検証結果

前述1の（1）から（4）の検証作業を進めた結果、最大2施設までの全需要移転ができる組み合わせが7パターンあることが確認できました。

また、需要移転する稼働コマ及び需要受入れ先の未利用コマの状況から、今後、需要移転を行う上では、次のような制約が生じる可能性があることも確認できました。

- ・川崎能楽堂と幸市民館の全需要を同時に移転することはできない。
- ・国際交流センターと川崎市民プラザの全需要を同時に移転することはできない。
- ・川崎市民プラザと男女共同参画センターの全需要を同時に移転することはできない。

今後は「公共ホールの最適化」に向け、上記の検証結果を勘案しながら、各施設が有する様々な条件等を整理した上で、需要移転に係る具体的な検討を進めていく必要があります。

全需要移転ができる2施設の組み合わせ ※一定の条件を設定し検証を行ったものであり、需要移転に係る今後の結論を示すものではありません。

生活行動圏	川崎・小杉駅周辺エリア			中部エリア		客席数合計
	川崎能楽堂 (148席)	幸市民館 (840席)	国際交流センター (264席)	川崎市民プラザ (489席)	男女共同参画センター (850席)	
パターン1	全需要を移転可能		全需要を移転可能			412席
パターン2	全需要を移転可能			全需要を移転可能		637席
パターン3	全需要を移転可能				全需要を移転可能	998席
パターン4		全需要を移転可能	全需要を移転可能			1,104席
パターン5			全需要を移転可能		全需要を移転可能	1,114席
パターン6		全需要を移転可能		全需要を移転可能		1,329席
パターン7		全需要を移転可能			全需要を移転可能	1,690席

※1 (1)で示したとおり、「課題施設に係る需要移転の可能性について確認」を行う上で設定した条件に基づく結果であり、条件設定により結果は異なります。

【補足説明】

詳細な検証の結果、3つの課題施設を組み合わせたすべてのパターンで全需要移転は不可となりました。

次に、2つの課題施設の組み合わせについて検証したところ、下段のパターン1から7の組合せで全需要移転が可能と分かりました。（よって、いずれの施設も、単体での全需要移転可能と分かりました。）

本取組の実現可能性が一定程度確認できたことから、第5章において、各施設の取組の方向性を整理することしました。

【補足説明】

この表は、どのようなパターンが需要移転が可能かを示しています。例えば、パターン1であれば、川崎能楽堂と国際交流センターの全需要を他のホールに移転可能であり、その他の3施設については、全需要移転ができないことを示しています。